



令和6年9月
(第24号)
発行責任者
防災・安心地域委員会
本部長 安藤 卓

必要な備蓄品を下の表に書き出してみましょう。
項目を上の行に記入し、それぞれの備蓄品を書き出しましょう。

水と食料(最低3日分) 水(1人1日3ℓ)、缶詰、レトルト食品、バランス栄養食
生活用品 乾電池、懐中電灯、ラップ、ポリ袋、ゴミ袋、カセットボンベ
衛生用品 携帯トイレ、トイレトペーパー、ティッシュペーパー、生理用品
ベビー・介護用品 おむつ、おしりふき、ミルク、離乳食、おもちゃ、介護食、眼鏡
情報収集・その他 ラジオ、モバイルバッテリー、連絡先リスト、常備薬、ペット用品

[illegible]

ポイント 地震に備えて耐震化支援制度を活用しましょう

市では、防災意識の向上を図り、災害に強いまちづくりを推進するため、既存の木造住宅の安全性を高める目的で住宅耐震化の取り組みを支援しています。詳しい内容は、お問合わせください。

《対象》

市内に昭和56年5月31日以前に建てられた所有者自らが利用する戸建ての住宅

- ①訪問耐震相談・・・費用は無料（相談枠には限りがあります）
- ②耐震診断・・・・・・・・最大5万円の助成
- ③耐震改修・・・・・・・・最大110万円の助成

《お問い合わせ》 平日8:30～17:15

あきる野市役所 都市整備部 住宅政策課 042-558-1111（内線2721）

防災講演会を開催しました

講師：瀧本浩一氏（山口大学大学院 創成科学研究科准教授）

テーマ：地域防災の考え方、すすめ方 来たるべき災害に備える

《ポイント》震度6弱の場合は、家具等の転倒で負傷することや閉じ込められることが多いが、震度6強の場合は、家屋が倒壊し、命の危険が高まる。まずは自分の命を自分で守るため、家具の固定や家屋の耐震化を実施することが大切。次に地域の防災意識を高めることが重要。防災対策グッズを普及させるため、町内会・自治会の行事で耐震グッズを配布することもひとつの方法。

講師：後藤武志氏（一般社団法人 危機管理教育研究所 上席研究員）

テーマ：自分のまちは 自分達で守る 自主防災組織とは？

《ポイント》過去30年間で発生した震度7の地震は7件あるが、いつどこで発生するかわからないので、いつでも準備しておくことが大切。まずは、自分や家族が助かること、その上で地域で助け合うことが必要。いざという時に地域の助け合いが機能するためには、平時の備えと訓練が役立つ。自主防災組織は、楽しく活動し、リーダーは1人で担わず、仲間（協力者）を作ることが重要。そして仲間には女性の参画を！

自分の命は自分で守る

令和6年度より、あきる野市防災・安心地域委員会の本部長を仰せつかりました安藤です。活動方針等、これまでの取り組みを継続して推し進めて参りますので、よろしくお願いいたします。さて、防災・安心地域委員会が平成20年12月に設立され、今年で16年目を迎えました。この間、町内会・自治会の自主防災組織の下支えの機能として、市とも連携して地域防災力の強化に取り組んできました。

昨今、温暖化に伴う気象現象の結果として、「過去に経験したことのない災害」「50年に一度あるかどうかの災害」等々、今までの経験則では想像することが難しいような災害が起きております。また、いつ起きるのか予測が難しい「可能性の高い大地震」も抱えております。災害に対して、私たちに課せられたことは、地道なことです。①ハザードマップおよび避難経路の確認 ②居住地周辺の側溝等の水はけの確認 ③日常必要となる備品の確保等々です。備えて、「自分の命は自分で守る」です。市の総合防災訓練や各地域での防災訓練への参加、地震発生時の初期活動を競技化した防災コンクールの開催など、町内会・自治会の自主防災組織とともに、地域防災力向上に向けての地道な取り組みを今後も継続してまいります。これからも、防災・安心地域委員会は、市民の皆様と共に「安心・安全なまちづくり」に努めてまいります。



防災・安心地域委員会
本部長 安藤 卓